

はじめまして

芝浦工大三浦研究室です。



皆さんは住環境についてどのような考えを持っていますか。住環境と一口に言っても、騒音・大気汚染・交通量・夜間照度・風通しなどの様々な分野があります。住環境は生活するうえで常に付きまとうもので、住民の皆さんが、住環境に対して興味を持ち、意識を高めることはとても重要なことです。

しかし、住環境の調査は都市の規模で行われていることが多く、地区の規模で調査されているケースは少ないのが現状です。そこで私たち三浦研究室は自治会の住民の皆さんと共同で実測を行い、住環境マップを作成し、住環境について考え、話し合い、改善していくと考えました。

今まで研究室は一昨年が一地区、去年が三地区の自治会と組んで、この活動を進めてきました。今年は新たに二地区と去年の継続地区が一地区、合計三地区と活動を行っています。

第1号

2003.10.29 発行

《製作者》

芝浦工業大学三浦研究室

4年 桜井 修

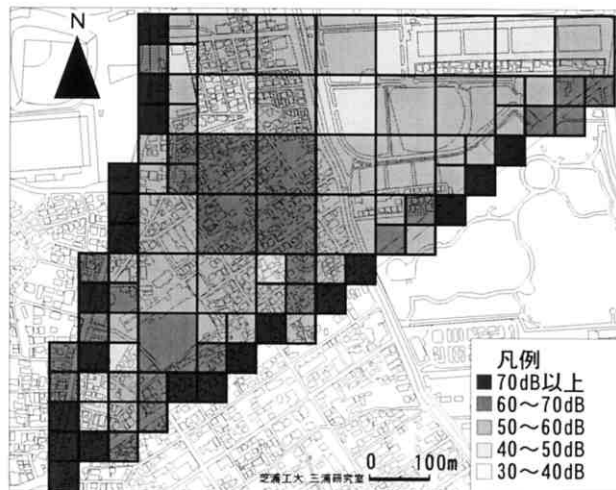
4年 鶴見 英大

【新聞の発行にあたって】
この草加市上南自治会住環境新聞は、住民の皆様に住環境に対する興味を持っていただきた、また住環境実測調査に参加していただきたとの思いを込めて発行しております。この新聞を読んで少しでも関心を持っていただければ幸いです。なお、この新聞は毎月発行する予定です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

住環境マップとは？

住環境調査の中で一番主軸となるのが住民参加の実測です。そして実測結果をもとに皆さんとこの結果をどうとらえるかなど話し合いを行います。そこで登場するのが住環境マップです。地図を50m×50mか100m×100mの格子状に分け、その中心点で計測を行います。その値をそのメッシュの値とし、すべてのメッシュの値を集め、色分けします。そして上図のような住環境マップが完成します。住環境マップを作成することによって、上南自治会の区域全体がどういった結果になったかを視覚的に分かり易く表現することが出来ます。また自分の住んでいる場所と別の人が住んでいる場所を容易に比較することが出来ます。

上図は一昨年度に作成された騒音の住環境マップです。濃いグレーの帯がVの字ようになって見えますが、この部分に主要な道路があります。やはり車の交通量がある場所とは地域に比べ騒音が高いことが上図の住環境マップからもはっきり分かります。



～担当学生自己紹介～



さくらい 修
桜井 修

現住所・・・東京都 文京区
出身地・・・福岡県 大野城市
出身校・・・県立 筑紫丘高校
これから上南自治会の皆さんと住環境調査をすることになり、とても楽しみです。この調査を通じて住環境に関して興味を持って、また意識を高める人が一人でも多くなるように努力していきたいと考えています。これから上南自治会の区域内を歩くことが度々出てくると思うので、気軽に声をかけて下さい。



つるみ ひでお
鶴見 英大

現住所・・・東京都 多摩市
出身地・・・東京都 調布市
出身校・・・私立 桐蔭学園高校
一緒に調査していく中で、住環境についてたくさん発見があればと思っています。私は、普段あまり接することのできない年配の方から子供たちまで色々な世代の方々と接することができて、貴重な経験になると思っています。楽しみです。実測には多くの方々参加してほしいです。よろしく願います。

《お問い合わせ先》

芝浦工業大学

システム工学部 環境システム学科 三浦研究室

〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作 307

TEL/FAX 048(687)5832 (月～金 11時～18時)

Email: r00039@sic.shibaura-it.ac.jp

教授：三浦 昌生

担当学生：桜井 修、鶴見 英大

<http://www.mmlab.se.shibaura-it.ac.jp/>

環境基準＜騒音編＞

○騒音の一般地域の環境基準

地域の類型	時間区分	
	昼間 6:00～22:00	夜間 22:00～6:00
A及びB	55デシベル以下	45デシベル以下
C	60デシベル以下	50デシベル以下

A：専ら住宅の用に供される地域
B：主として住宅の用に供される地域
C：相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域

○騒音の道路に面する地域の環境基準

地域の区分	時間区分	
	昼間	夜間
A地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域	60デシベル以下	55デシベル以下
B地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域 及びC地域のうち車線を有する道路に面する地域	65デシベル以下	60デシベル以下

騒音の環境基準は、現に得られる限りの科学的知見を基礎として定められているものであり、常に新しい科学的知見の収集に努め、適切な科学的判断が加えられていかなければならないものである。

騒音の環境基準の一部を上表に示しました。この他にも上南自治会は地域の類型Bに当てはまります。11月に騒音実測を行います。実測時またはその結果を見る際にはこの環境基準と比較してみましょう。

住環境に関する話の中で環境基準という言葉をよく耳にします。環境省は環境基準をこう定めてあります。環境基準とは人の健康の保護及び生活環境の保全のうえで維持されることが望ましい基準として、終局的に、大気、水、土壌、騒音をどの程度に保つことを目標に施策を実施していくのかという目標を定めたものである。

環境基準は、「維持されることが望ましい基準」であり、行政上の政策目標である。これは、人の健康等を維持するための最低限度としてではなく、より積極的に維持されることが望ましい目標として、その確保を図っていくこととするものである。また、汚染が現在進行していない地域については、少なくとも現状より悪化することとならないように環境基準を設定し、これを維持していくことが望ましいものである。

また、環境基準は、現に得られる限りの科学的知見を基礎として定められているものであり、常に新しい科学的知見の収集に努め、適切な科学的判断が加えられていかなければならないものである。



実測調査に参加しましょう！

これから上南自治会の皆さんと実測調査を行っていただきます。騒音調査、交通量調査、空気の汚れを測る二酸化窒素濃度調査を予定しています。特に騒音調査では研究室のサポートのもと、住民のみなさんに計測器を使って頂いて計測します。実測前日に計測場所、計測器の使い方などの説明会を行います。実際に計測器を使って自分の住んでいる地域の環境を調査することはなかなか経験できません。是非参加しましょう。

11月下旬に騒音と交通量実測調査が決定

騒音と交通量実測調査に参加して頂く方を募集します。研究室の学生がサポートするため、実測は決して難しいものではありません。詳しいことについては後日お知らせします。

三浦研究室学生紹介

2年目の継続地区、LM地区

仲間 剛（4年）写真右
水野 真吾（4年）写真左
みなさん、こんにちは。私たちは、今年で調査2年目になるライオンズマンシオン大宮指扇地区（LM地区）を担当しています。昨年度先輩がLM地区で行ってきた調査を、今年度私たちが引き継ぎました。

2年目になる今年は、住環境の実測調査だけでは終われません。LM地区の皆様が現在どのような町に住んでいるかを、今年度と昨年度の実測調査結果をもとに把握していきます。その上でLM地区の皆様が理想として思い描いている町の住環境について話し合います。最終的には、住環境の保全・改善のための具体的な計画である「地区住環境グレードアッププラン」を作っていくと考えています。

四丁目町内会の皆様も、住環境改善のために頑張ってください！心より応援しています。



住環境調査スケジュール

	日程	実測調査・実施項目・備考	新聞発行
H15年	10月下旬	・「住民の方々へ参加のお願い」 「住環境調査の概要」の配布	
	11月上旬	・第一回アンケート調査 ・騒音、車両交通量の計画準備	第1号
	11月下旬	・騒音、車両交通量調査 ・二酸化窒素濃度実測調査の計画準備	
	12月上旬	・二酸化窒素濃度実測調査	第2号
H16年	12月下旬	・各実測のデータ整理	
	1月上旬	・住環境マップ作成	第3号
	1月下旬	・第二回アンケート調査	
	2月上旬	・懇談会	第4号
	2月下旬		

※スケジュールは上南自治会との話し合いで多少変更することがあります。

私たちに身近な住環境が安全で健康的になってこそ、我が国は真に豊かなものではないでしょうか。これまで研究室と共同調査を行った県内4地区の町内会から「地区の住環境の現状がよくわかった」「住環境に対する関心が高まった」「データをもとに住環境を良くしていく」「との感想が寄せられています。具体的なデータと住民の皆さんの意識が住環境を良くする原動力だと思っています。桜井、鶴見をよろしく願います。



三浦 昌生

芝浦工業大学教授

「真の豊かさとは？」